

消防指令システムの高度化等に向けた検討会（第8回）

議事概要

1 日時

令和5年3月6日（月）13：15～15：00

2 場所

Web開催

3 出席者（敬称略、順不同）

【委員】

藤井 威生（座長：電気通信大学）、木許 英昭（大分県）、小室 俊之（秦野市消防本部）、小山 宏（ちば消防共同指令センター）、高倉 弘喜（国立情報学研究所）、徳田 圭（小樽市消防本部）、野崎 孝幸（東京消防庁）、古屋 美智子（さいたま市消防局）、三木 浩平（総務省デジタル統括アドバイザー）

【オブザーバー】

川島 洋平（日立製作所）、木村 俊次（富士通 Japan）、河野 健人（富士通ゼネラル）、佐藤 芳洋（牧オブザーバー代理：日本電気）、高嶋 賢雄（沖電気工業）、平口 隆志（全国消防長会）、消防庁 救急企画室

4 配布資料

資料8-1：消防指令システムの基本的な機能の整理

資料8-2：通信指令業務の標準的な業務フロー・消防指令システムの基本的な機能の解説文書（時点版）※

資料8-3：通信指令業務の標準的な業務フロー・消防指令システムの基本的な機能の解説文書（時点版）別紙1 差異確認用チェックリスト（時点版）※

資料8-4：通信指令業務の標準的な業務フロー・消防指令システムの基本的な機能の解説文書（時点版）別紙2 調達仕様書ひな形（時点版）※

資料8-5：標準インターフェイスの仕様書（素案）等

資料8-6：モバイル網（IP無線）に係る標準インターフェイス仕様書（素案）※

資料8-7：消防システムの標準化・クラウド活用及びネットワークの整備等

資料8-8：令和5年度以降の検討スケジュール

参考資料8-1：消防指令システムの高度化等に向けた検討会（第7回）議事概要

※構成員限り資料

5 議事概要

1. 開会

2. 議事

(1) 消防指令システムの基本的な機能の整理

資料8-1に基づき事務局から説明が行われた。なお、特段の意見なし。

(2) 標準インターフェイスの仕様書（素案）等

資料8-5に基づき事務局から説明が行われた。主な質疑・意見等は、次のとおり。

委員：今回、消防庁が策定する標準仕様は、これまで策定してきた標準仕様から少し性質が変わっていることを新たに認識しなければならない。現在消防本部が行っている通信は、外部とは電話回線を主体としているほかは、緊急車両とは消防独自の無線回線を使用するなど、通信の相手方は限られ、かつ、消防本部の中で完結するクローズドな環境でやりとりが行われている。今後行おうとしている通信は、画像や動画といったリッチコンテンツが、一般の国民や様々な緊急通報サービス事業者から消防本部に伝送されるものであり、通信の相手方や扱うコンテンツが急激に変化している。今後の消防指令システムでは、従来のシステムのように法令に基づき要求されていることを確実に実行できるという観点に加え、セキュリティの観点が重要である。一方で、どのようなセキュリティ対策を講じればよいかという正解はない。なぜならば、毎日のように新しい攻撃方法が生まれるため、その時点で最高のソリューションを導入したとしても、100%安全にはなり得ない。そのため、攻撃の変化に対して随時ソリューションを評価すること、すなわち、日々のマネジメントが大切と考える。共通ゲートウェイに関する議論は、消防本部がセキュリティ対策を日々マネジメントしていかなければならない中、これまで消防本部で経験してこなかった問題であるため、消防本部が個々にマネジメントを行うのではなく、広域で担う方がよいという考えで提案されたものと認識している。このような仕組みを設けるとして、セキュリティ対策に充てる費用については、必要だからといって青天井にお金をつぎ込めるわけではないので、留意していただきたい。まだ共通ゲートウェイの事業主体がどのような団体になるのかは分からないが、あくまで利用団体や事業主体が確保できる予算の範囲でやりくりを行わなければならないことだと考えており、今後検討を進める中で、マイナポータルやLGWAN等の既存インフラを活用することを含めて、

事業性を検討する必要があるのではないか。

事務局 : 事業性を考慮しつつ、合理的なセキュリティ対策を検討すべしという御意見と認識した。頂いた御意見を踏まえ、来年度以降検討を進めていく。

委員 : ネットワークの敷設方法は、資料に記載されている集約型の閉域網を整備し、各緊急通報サービスと消防本部を接続する構成の方が良いと思う。しかし、現状の通報システムをそのまま載せ替えているイメージなのが気になる。先ほど委員から意見があったとおり、全てを豪華にする必要はないと感じる。他方、指令センター間の連携方法や、ここでの議論ではないが、地域医療との連携方法、レスキューに向かう消防車両に対して、車種年式ごとに異なる電気自動車のレスキューマニュアルをどのように伝えるのかなど、今後具備することが好ましい機能についても考えていただきたい。AVMに係る標準インターフェイスの整備箇所に関する説明で、車両運用端末装置を管理する管理装置と車両運用端末装置間に、「FOMA回線/LTE等の携帯電話回線」と記載があるが、大規模災害時を考えると、携帯電話網に依存していいのか気になる。バックアップには、衛星回線、無線系、VHF系、UHF系が活用可能と考えられるので検討していただきたい。

事務局 : 今後、集約型の共通ゲートウェイに担わせるべき役割を検討しつつ、将来性についても考えていきたい。親局装置とAVM間の回線は、現在、携帯電話回線のほか、デジタル無線等を使用しているところ、標準インターフェイスとしてどのような回線を定義すべきなのかも検討していきたい。

座長 : 緊急通報に係る標準インターフェイスのシステム全体構成案では、閉域網でつながっているところが多いが、緊急通報サービスと共通ゲートウェイ間をつなぐ回線については、今後の検討と認識している。セキュリティ対策は、インターネットに接続する場合、共通ゲートウェイで担保し、閉域網に接続する場合、緊急通報事業者で担保すると考えられるが、事務局では、どのような想定をしているのか教えてほしい。

事務局 : ご認識のとおり、緊急通報サービスと共通ゲートウェイ間の回線は今後検討を行う予定である。セキュリティ対策については、今後、緊急通報サービス事業者に求めるセキュリティ条件と標準IFで実施する対策を検討していくので、検討結果がまとまり次第、報告させていただく。

座長 : 緊急通報サービス事業者をどの程度認めるのかという規定にもよりますが、是非、検討いただきたい。まだ検討が始まったばかりであるが、誰が共通ゲートウェイを整備するのも重要な要素のため、今後しっかり検討いただきたい。

(3) 消防システムの標準化・クラウド活用及びネットワークの整備等

資料 8-7 に基づき事務局から説明が行われた。主な質疑・意見等は、次のとおり。

委員：来年度は、1年間かけて標準仕様書を策定する重要なフェーズである。検討を進める過程で考えられる大きなリスク要因が2点ある。1点目は、ベンダーへの見積り依頼や情報提供依頼を行っても、これまでとレスポンスが異なる点である。自治体情報システムのうち標準化対象の20業務に該当するものをガバメントクラウドに移行するため、現在、自治体やベンダーは繁忙であり、問い合わせてもほぼ返信が期待できない状態である。全ての団体に対してRFIを行うのではなく、消防庁がいくつかパターンに絞るとの説明があったが、リスク要因となり得る。2点目は、ベースがないところからデータ要件を決める点である。標準化対象の20業務は、APPLICの地域情報プラットフォームをベースに自治体の住民情報系のデータ要件を作成したため、非常に作成しやすかった。他方、消防庁の検討では、各ベンダーが固有で整備しているデータ項目等を標準化するため、ベースとなるものがない中で行うことから、スケジュール的に厳しいものとなるリスクがある。コスト分析に関する説明の中で、「ガバメントクラウド先行事業」の整理結果等を参考」とあった。デジタル庁が行った先行事業では、標準仕様がない事点で実施されたため、現状オンプレで稼働しているものをクラウドに移行し、オンライン回線を使って検証が行われたので、その点に留意して結果を参考にされたい。先行事業からは、主な状況として、システムを整備する環境が複数に跨ると、回線も重複敷設するため、事業収支は悪化する傾向が報告された。なお、ガバメントクラウド早期移行団体検証事業が後続事業として採択され、来年度8団体程度が行う予定であるので、こちらもコスト分析の参考としていただければと思う。ガバメントクラウドに載せるプログラムも標準化の前提となる事業のため、消防庁事業の参考となるものでないかと思う。

事務局：ベンダーから見積りを取得する際に考慮しながら検討方法を考えていきたい。データ要件は、本検討会オブザーバーの指令ベンダー5社にも協力いただきながら、合理的に検討を進めていきたいと思う。また、デジタル庁の最新情報も確認させていただく。

委員：回線の最有力候補はLGWANでいいのではないかと思う。一方、年1～2時間程度障害が発生しているため、これが許容範囲であるのか疑問である。もし許容されない場合、バックアップをどうするのか考えておいていただきたい。他の候補の中から、バックアップ用回線を用意しておくことも大事かと思う。

事務局：クラウドを使用する以上は通信障害が発生することを前提に検討を進める

必要があると認識している。通信が途絶した場合のバックアップ体制についても検討していきたい。

座 長 : 位置情報通知ネットワークは、現在帯域が小さいという話であったが、帯域を増やして活用するのは難しいのか。改変が難しいという認識でいいのか。

事務局 : ネットワークの構築事業者との調整も必要である。現時点では帯域の変更は難しいと考えている。

座 長 : LGWANを使用するのに違和感はないが、今後しっかり検討いただきたい。

(4) 令和5年度以降の検討スケジュール

資料8-8について事務局から説明が行われた。なお、特段の意見なし。

(5) その他

事務局から、第9回会合の日程は別途調整し決まり次第ご案内すること、本日の議題に関する意見等があれば、3月13日(月)までに事務局にお知らせしていただきたい旨の連絡があった。

3. 閉会

以上